

令和3年度九州八県赤十字大会

令和3年11月11日(木)

寛仁親王妃信子殿下のおことば

はじめに、今年の度重なる豪雨災害や、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、被災されました皆様にお見舞いを申し上げます。一日も早い被災地の復興・復旧、新型コロナウイルス感染症の終息を心から願っております。

さて、本日ここに令和3年度九州八県赤十字大会が開催され、日頃より赤十字の活動に深く携わっておられる皆様とお会いできましたことを大変嬉しく思います。

これまで赤十字は国際的に強い絆で結ばれ、人道・博愛の立場から様々な活動が続けてまいりました。我が国におきましても、日本赤十字社が今大会にご出席の皆様をはじめとし、多くの方々の深いご理解とお力により、その使命を果たすことを大変心強く思っております。

昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、日本だけでなく国際的な社会が大きな打撃を受けました。このような厳しい環境の中で、日本赤十字社は全国の赤十字病院にて、多くのコロナウイルス感染症の感染者を受け入れ、ワクチン接種に対しても医療従事者を派遣するだけでなく、感染症に不安を抱える人々に対してメンタルケアに繋がる啓蒙活動を展開するなど、多くの分野で尽力されておられると伺っております。

また、昨年九州地方を襲った豪雨災害では、コロナ感染症の蔓延下の災害という困難な状況でありながら、赤十字の支部や病院が連携して救援物資の配布や、救護班の派遣を迅速に行うなど、日本赤十字社がその使命を果たすことができましたことは、ひとえに会員の皆様のおかげ様と心より感謝を申し上げます。

今日、世界各地で発生する自然災害や紛争による難民問題などによって、長期にわたる人道的な支援を必要とされている方が多くおられ、赤十字に寄せられる期待と要請は今後ますます高まるものと思います。

皆様が本日の大会を契機として、赤十字の尊い使命の達成の為、お互い手を携えて、より一層充実した活動が進められることを願うと共に、その精神が多くの人々に理解されていくことを願い、大会に寄せる私の言葉と致します。